



市政記者クラブ加盟社 各位

盛岡市内で発見された死亡野鳥における 高病原性鳥インフルエンザの発生について

3月19日に盛岡市内で死亡が確認された野鳥のハシブトガラス1羽について、3月28日に高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。このハシブトガラスは、動物公園内（新庄字下八木田60-18）で発見されたものであり、動物公園では、これまで日常的に行ってきた感染防止対策に加え、飼育鳥の異常の監視と防疫措置の強化を行っております。

高病原性鳥インフルエンザは、感染鳥への濃密な接触がなければ人へは感染しないと考えられており、通常の入園や園内の散策が感染に結びつくことはないと言われておりますので、4月20日のリニューアルオープンにつきましては予定通り行うこととしております。

これまでのところ、盛岡市動物公園内で飼育している鳥類の健康状態に異常は見られませんが、飼育鳥や園外への感染拡大を防止するため、感染防止対策をさらに強化してまいります。

記

1 経緯

- 3月19日 夕方、園内の林の中で死亡したハシブトガラスを発見。
鳥インフルエンザ簡易検査で陽性反応を示す。
発見地点の周囲の清浄化、周囲への立入禁止の措置。
回収地点から半径10km圏内を野鳥監視重点区域に指定（環境省）
- 3月20日 遺伝子検査のためのサンプル採取。
園内の感染防止対策の強化、飼育鳥の異常の監視
- 3月28日 遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザ（H5亜型）と判明
- 4月16日 野鳥監視重点区域解除の見込み（発生翌日から28日目）

2 感染防止対策

盛岡市動物公園では例年、高病原性鳥インフルエンザが発生する11月を目安に、飼育鳥類の屋内収容と野鳥やネズミ侵入防止対策、足裏2重消毒、園内へ出入りする車両の消毒など基本的感染防止対策を行っております。

令和4年9月末に鳥インフルエンザが国内発生したことを受け、同年10月頃から現在まで対策を継続しております。今後は次のような日常的対策をさらに強化し、飼育鳥への感染防止に努めます。

- ・飼育鳥の屋内もしくは屋根付き施設への収容
- ・小鳥やネズミ等の小動物の侵入防止対策
- ・鳥類飼育舎へ出入りする際の足裏2重消毒、専用長靴の使用
- ・鳥類飼育担当の限定と、感染リスク分散のため獣舎毎の担当配置
- ・盛岡市動物公園へ出入りする車両のタイヤ消毒と足裏消毒
- ・園職員、園内へ出入りする関係者への情報共有と感染対策の周知